

は じ め に

この年報は、当センターの平成9年度における業務内容と調査研究の概要を取りまとめ、年報第27巻として発刊したものです。ご高覧いただき、ご指導ご助言を賜れば幸いに存じます。

本県における環境の状況は、大気、水質関係等ともに環境基準をおおむね達成しており、一般的に良好な環境が維持されております。しかしながら、北潟湖、三方五湖の湖沼や都市部の中小河川の水質汚濁、地下水の汚染、自動車の交通公害、悪臭の苦情等の地域社会的な環境問題を抱えています。

平成9年12月の「地球温暖化防止京都会議」で、世界の国々が地球温暖化対策にむけて具体的な一歩を踏み出すことに合意したことから、平成10年10月には、地球温暖化対策推進法が公布され、私たちの使い捨ての生活スタイルも大きく変化していくものと思います。

身近で深刻な環境問題として注目されているものに、ダイオキシンや環境ホルモンなどの有害な化学物質による環境汚染があります。

ダイオキシンは、ごみ焼却の際に、廃棄物焼却炉から発生し、環境ホルモンは、日常よく使われている製品や工業材料、農薬などが汚染源といわれています。

環境ホルモンは、生体に入るとごく微量の濃度で、生殖機能や免疫機能を低下させるなど正常なホルモン作用を狂わせると言われていますが、環境中の挙動、生態系の影響、人の健康影響、その因果関係など未解明な点が多くあります。

今後、様々な角度、視点からの調査研究や科学的知見が必要であり、そのための環境研究・環境技術の役割がますます重要になってきております。

その役割を果たしていくのが地方環境・公害研究所の使命であろうと考えております。

当センターでは、大気や水質等の環境の常時監視はもとより、有害大気汚染物質調査、酸性雨環境調査、湖沼の富栄養化、都市中小河川の水質汚濁解析、有害物質による地下水の汚染、嗅覚測定調査、地域環境特性の評価等の調査研究に鋭意取り組んでおります

これからも、新たな化学物質による環境汚染などに取り組むとともに、日本インターネット協会賞の受賞を契機に「みどりネット」による環境情報のより一層の提供やフィールドにおける環境教室など環境教育の充実にも努め、安全で安心な、環境と調和した社会づくりを推進していきたいと考えています。

なにとぞ、当センターの活動がますます活発に展開されるよう関係各位の一層のご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

平成10年12月

福井県環境科学センター

所長心得 宮 永 信 幸